

## 【誤記該当箇所】

装苑賞に挑み、現在も第一線で活躍するデザイナーたちをピックアップ。夢を持ち続け何度も装苑賞にチャレンジした軌跡と今を紹介する。

### 装苑賞に挑んだデザイナーたち

STASTNY SÚ 2016年春夏コレクション

「some flowers」をテーマに、多面的な女性像を、様々な花をモチーフに表現したコレクション。立体的な花のアップリケやテキスタイルの中に花を閉じ込めた押し花シリーズ、また女性性を花に見立て、蝶が花へと引き寄せられている姿を描いた刺繍のアイテムなど、ファンタジックでガーリーな世界観が特徴。コレクションの룩ではフラワーアーティスト、エデンワークスの篠崎恵美さんとコラボレートしている。

Vol.16  
赤丸卓正

1981年広島生まれ。2006年、明治大学経営学部卒業後、文化服装学院へ入学。'11年、文化ファッション大学院大学デザインコースを卒業し、'12年に、繊細な女性像をクリエイトするブランド「シュチャストニー スー」をスタート。'13年春夏コレクションでデビュー。

大学で経営学を修了後、ファッションを学ぶため文化服装学院へと進んだ赤丸卓正さんは、在学中に装苑賞に3作品がノミネートされ、そのうちの2作品が公開審査会への出場を果たしている。ユニークな発想とロジカルな思考でテーマを打ち出し、ベーシックアイテムにギミックを盛り込んだ作品は、時に審査員からアーティスト的な思想を称賛されたり、女性が着る服としての欠点を指摘されたり、センスのよさに技術が追いついていないと諭されたりと、様々なアドバイスをもらい、その都度、自身の糧にして挑戦を続けてきた。装苑賞の作品は、オリジナルブランドのデザインに影響を及ぼすことも多いが、赤丸さんが手がける「シュチャストニー スー」は180度方向性が違うのもおもしろい。デビュー当時から一貫してガーリーで繊細なもののづくりを心がけ、女の子の心をとらえている。商品と作品はもちろん違うベクトルのものだが、この発想の振り幅があってこそ、商品ディテールに対するこだわりやベーシックアイテムのデザインの幅も広がるのだ。

## 【正】

- ① 1981年広島生れ。2006年、明治大学経営学部卒業後、文化服装学院へ入学。'11年、文化ファッション大学院大学デザインコースを卒業し、'12年に、繊細な女性像をクリエイトするブランド「シュチャストニー スー」をスタート。'13年春夏コレクションでデビュー。
- ② 大学で経営学を修了後、ファッションを学ぶため文化服装学院へと進んだ赤丸卓正さんは、在学中に装苑賞に3作品がノミネートされ、そのうちの2作品が公開審査会への出場を果たしている。ユニークな発想とロジカルな思考でテーマを打ち出し、ベーシックアイテムにギミックを盛り込んだ作品は、時に審査員からアーティスト的な思想を称賛されたり、女性が着る服としての欠点を指摘されたり、センスのよさに技術が追いついていないと諭されたりと、様々なアドバイスをもらい、その都度、自身の糧にして挑戦を続けてきた。装苑賞の作品は、オリジナルブランドのデザインに影響を及ぼすことも多いが、赤丸さんが手がける「シュチャストニー スー」は180度方向性が違うのもおもしろい。デビュー当時から一貫してガーリーで繊細なもののづくりを心がけ、女の子の心をとらえている。商品と作品はもちろん違うベクトルのものだが、この発想の振り幅があってこそ、商品ディテールに対するこだわりやベーシックアイテムのデザインの幅も広がるのだ。
- ③ ŠTASTNÝ SÚ 2016年春夏コレクション
- ④ 「some flowers」をテーマに、多面的な女性像を、様々な花をモチーフに表現したコレクション。立体的な花のアップリケやテキスタイルの中に花を閉じ込めた押し花シリーズ、また女性性を花に見立て、蝶が花へと引き寄せられている姿を描いた刺繍のアイテムなど、ファンタジックでガーリーな世界観が特徴。コレクションの룩ではフラワーアーティスト、エデンワークスの篠崎恵美さんとコラボレートしている。